

円窓亭

鎌倉時代（1185-1333）にさかのぼるこの経蔵（お経を保管しておく蔵）は、茅葺屋根と大きな丸い窓が特徴で、この時代の建築様式としては非常に珍しいものです。円窓亭は日本の重要文化財に指定されています。

元々は春日大社にあった建物でしたが、神仏分離がされた明治時代（1868-1912）に奈良公園の南にある現在の位置に移されました。

夜には、よくこの建物に照明が当てられ、早春は奈良の梅が花開き、特に美しいと考えられています。また秋になると、見事な紅葉がこの独特の日本の建物を眺める美しい背景となります。